

仮設住宅実態調査レポート

はじめに

東日本大震災によって、石巻専修大学が立地している石巻の地は大きく変わりました。経営学部山崎ゼミでは、5月6日、7日に開かれた臨時ゼミナールで、このまま当初の目的どおりゼミ活動を進めるよりも「石巻の復興の力になりたい」という声が学生たちからあがりました。6月の大学再開とともに、ゼミでは何ができるか、何をすればいいのか話し合いが続きしました。最初はなにをすべきか迷っていましたが、やがて大学周辺で仮設住宅の建設がすすむ様子を見て、そこに住む人たちを「ご近所さん」として支援をしていこうという方針がまとまりました。

本調査は、ゼミ生が仮設住宅の支援活動を実施するにあたって、基本情報の収集を目的としています。本調査に先立って、7月27日に20戸余りの仮設住宅で聞き取りをし、そこから得られた「コミュニティ」「買い物」「子ども」という問題意識に基づき調査項目を作成しています。山崎ゼミでは今回の調査結果をもとに、支援プロジェクトを企画立案し、仮設住宅の問題解決を目指しています。

調査概要

＊調査目的

今後の支援活動を展開するにあたって仮設住宅の実態を把握する。

＊調査の方法

調査対象：南境地区の入居済み仮設住宅（8月1日時点：812戸）

調査期間：2011年8月10日～12日

回収状況：配布数 573枚、回収数 277枚（回収率48.3%）

調査方法：

調査票を各世帯に配布し、調査期間中に回収。

住民一人一人に主旨を理解してもらうため、原則として対面による配布・回収をおこなった。

調査実施機関およびお問合せ先

＊調査実施機関

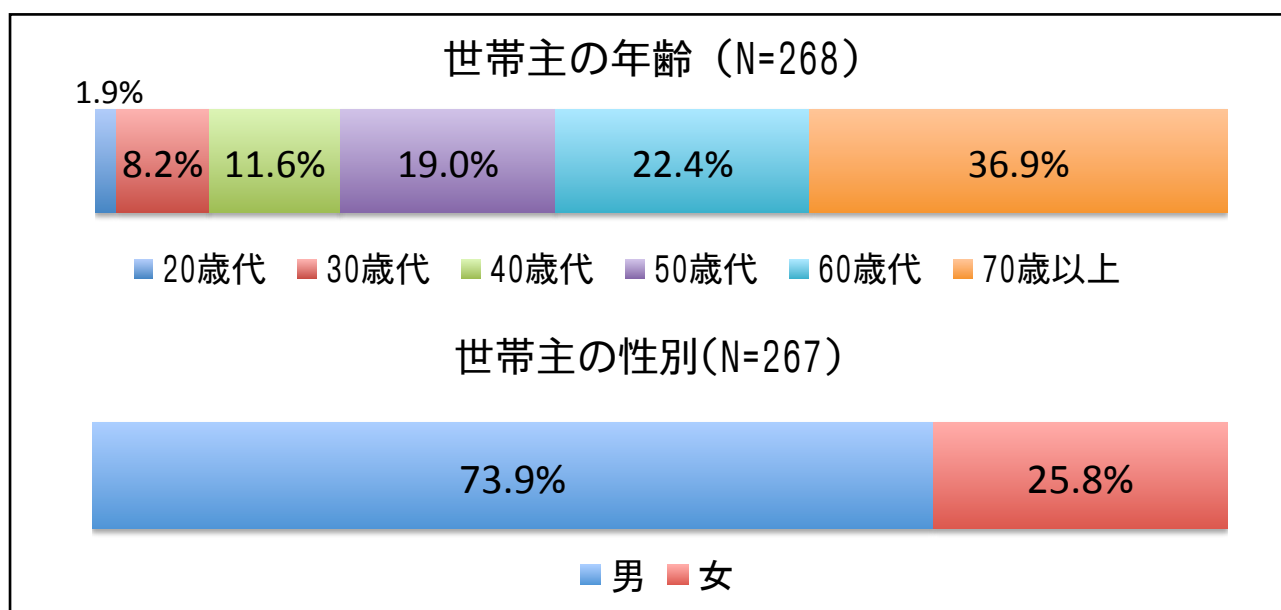
石巻専修大学山崎ゼミナール

＊お問合せ先

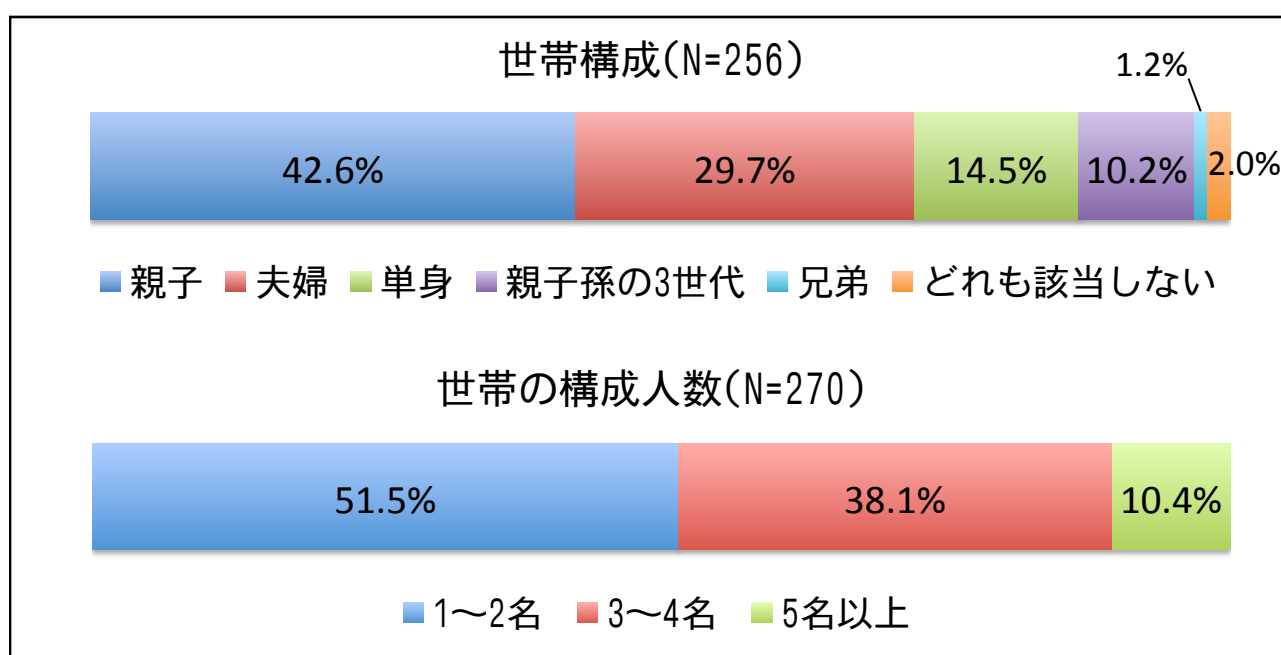
石巻専修大学経営学部准教授 山崎泰央

E-mail：yso-y@isenshu-u.ac.jp

1. 仮設住宅入居世帯の概況



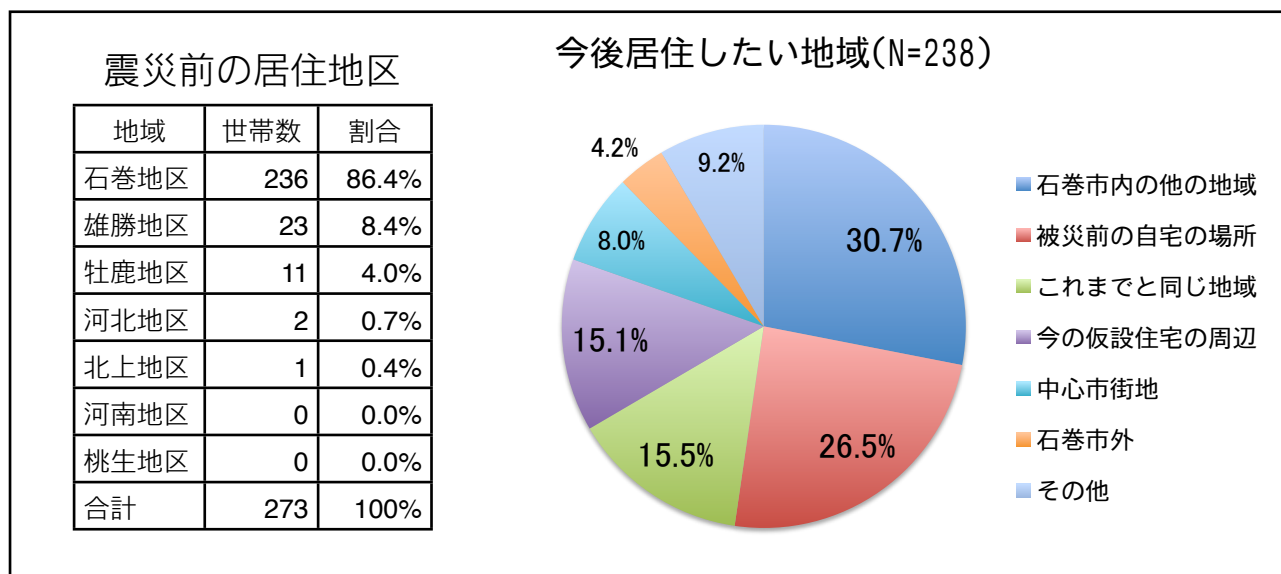
調査対象の世帯主は男性が73.9%と多く、年齢は60代以上が58.7%を占めていた。全体的に高齢者の割合が高い。



調査対象の世帯構成は親子世帯（核家族）42.6%と多く、これに夫婦、単身世帯が続いている。世帯の構成人数は1～2名が51.5%と最も多く、5名以上の世帯は10.4%と少ない。

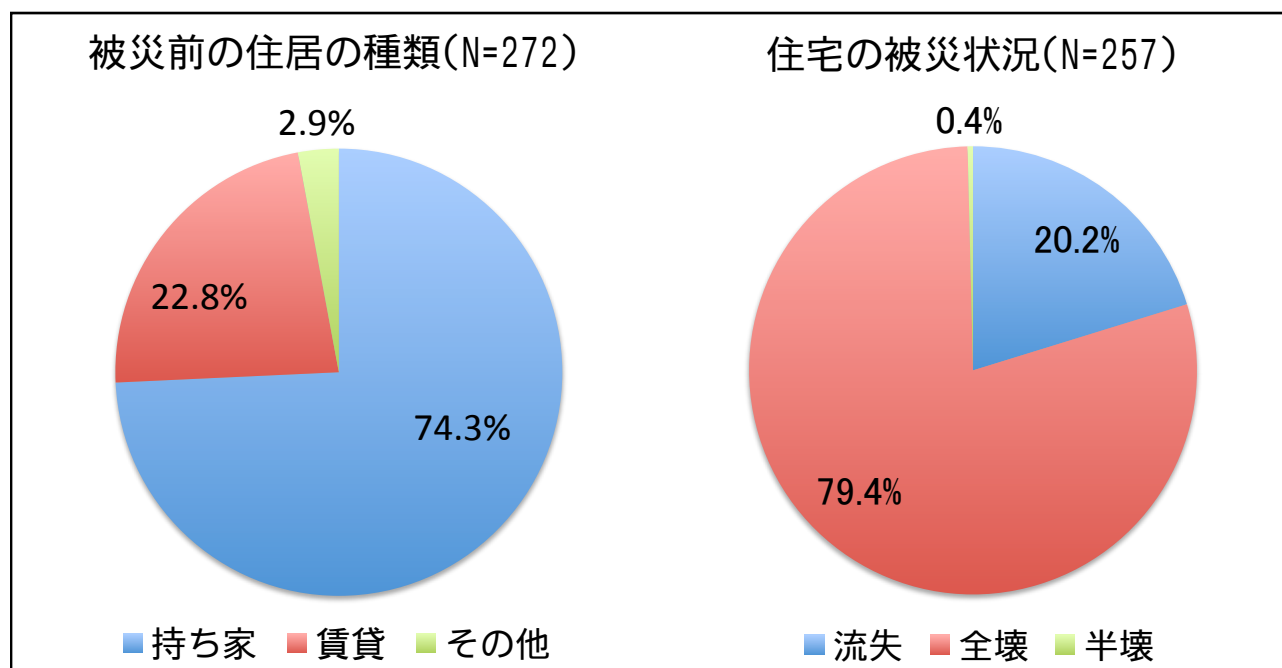
入居世帯の概況として、60歳以上の高齢者の小規模世帯が多いと推察できる。

2. 震災前の居住地区と被害状況



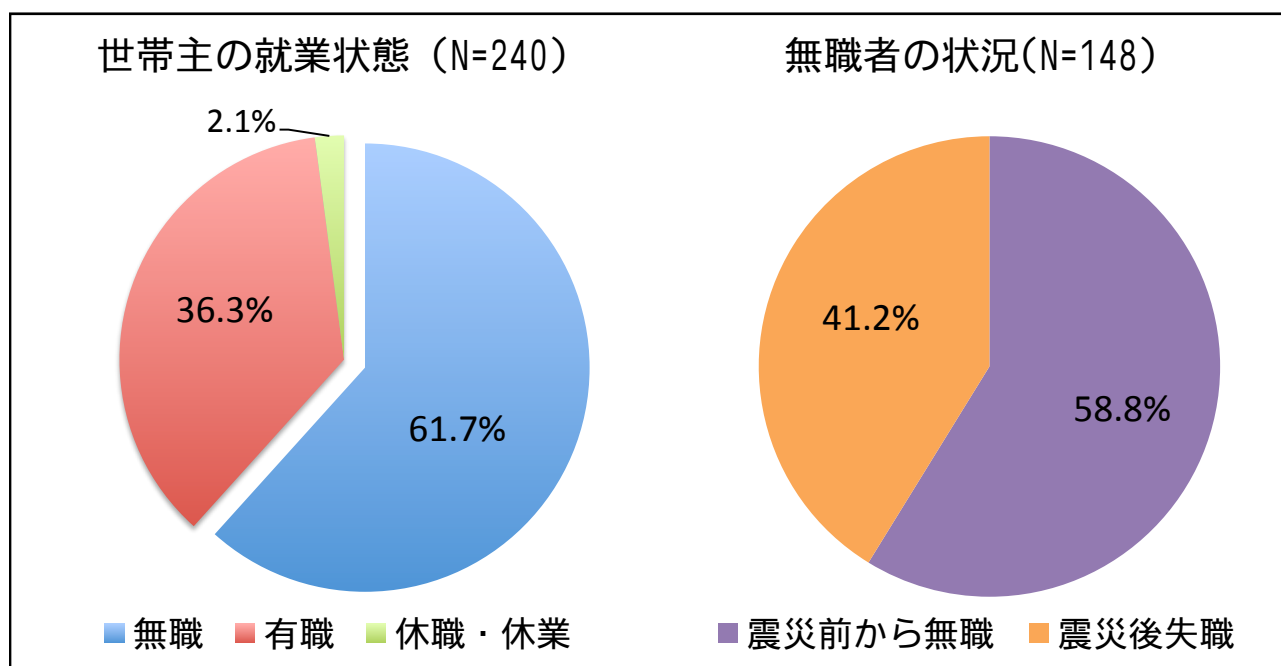
震災前の居住地区は募集地区の関係もあり石巻地区（旧市）が86.4%と最も多い。石巻地区は住所が記載されていた211世帯中、湊・渡波地区が65%と最も多かった。その他は南浜・門脇、大街道など被害の大きい地域からだった。

今後居住したい地域は石巻市内の他地域が30.7%と多く、市外への転出希望は4.2%と低い。また、「被災前の自宅の場所」と「これまでと同じ地域」を合わせると42.0%となり、被災前と同じ地域に住みたいという傾向が強くみられる。

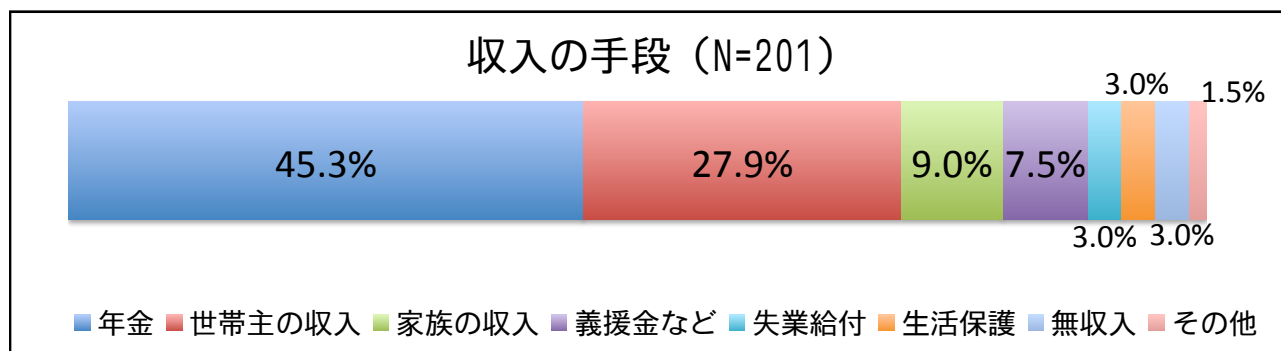


被災前の住居の種類としては持ち家が74.3%だった。住宅の被災状況は流失、全壊あわせて99%以上あった。

3. 就業状況と収入の手段



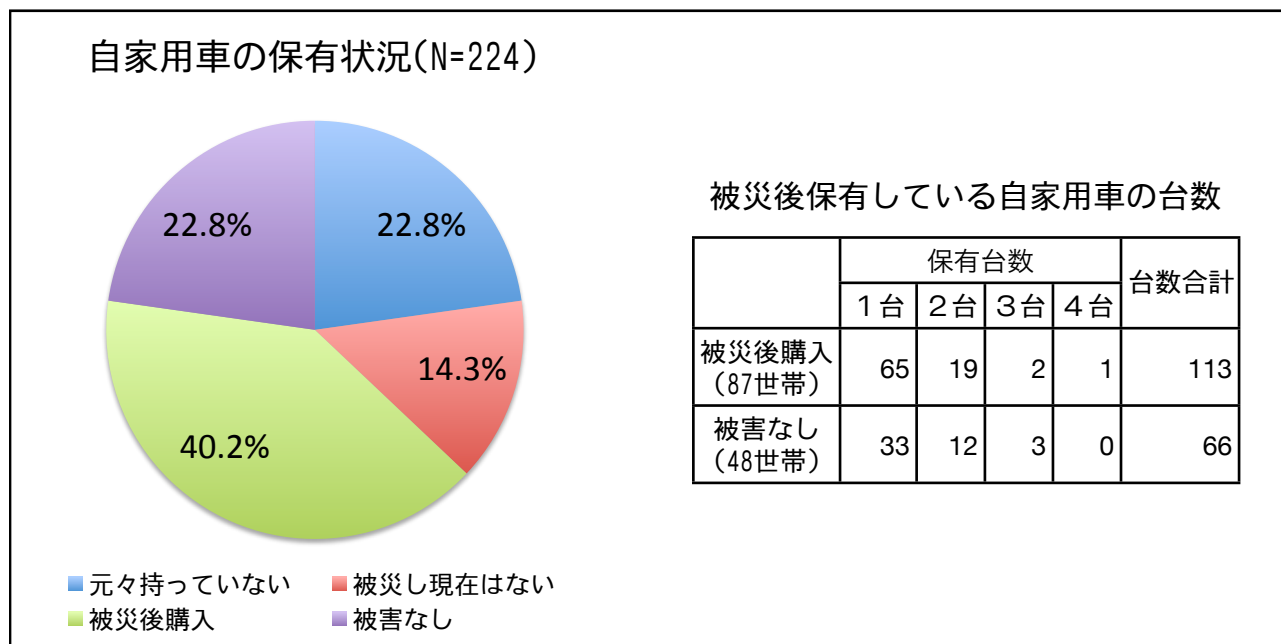
調査対象の世帯主の61.7%は無職（年金生活者含む）だった。無職者の41.2%は震災後失職しており、これは調査対象全体の4分の1に相当する。



収入の手段は年金が45.3%と多く、世帯主の収入と家族の収入が続く。義援金、失業給付、生活保護、無収入など、積極的な収入のない世帯は全体の16.4%を占めている。

被災者の生活再建のためには、積極的な収入のない世帯および年金生活世帯の収入対策が必要である。

4. 自家用車の保有状況



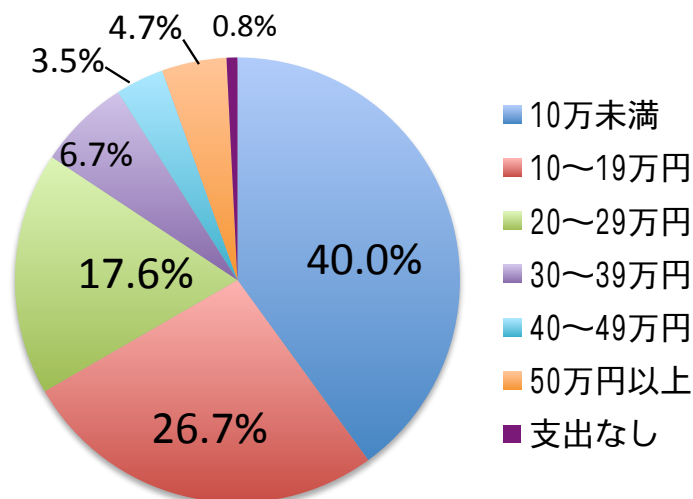
調査対象の40.2%の世帯が被災後自家用車を購入している。被害なしと合わせて63.0%が自家用車を保有している。

自動車保有世帯の平均所有台数は1.33台となっている。なかには4台も保有している世帯があった。駐車場が1世帯に1台分では不足しており、敷地内の駐車場の有効配分が必要である。

5. 生活用品の購入状況

入居準備にかかった費用

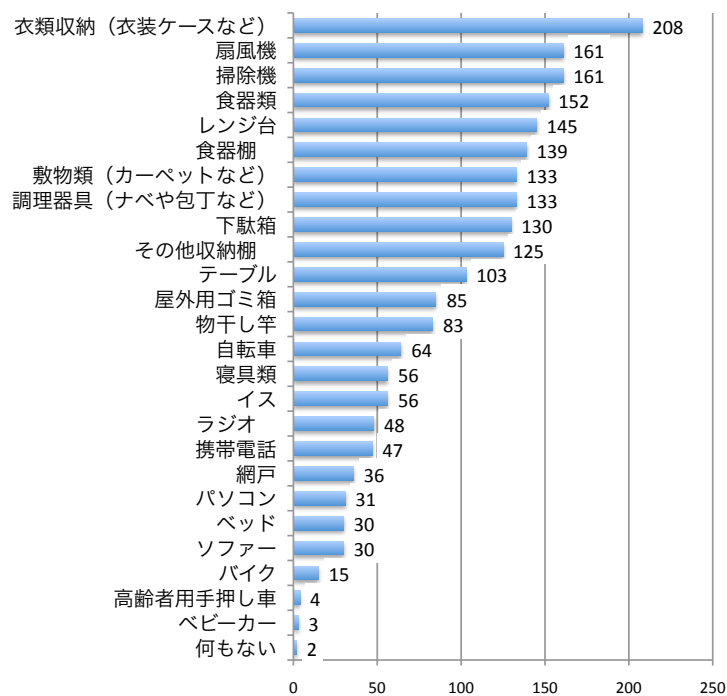
(食料品・自家用車を除く;N=255)



調査対象の世帯が仮設住宅の入居準備にかけた費用は10万円未満が40.0%と最も多く、0～29万円までで全体の84.3%を占めている。

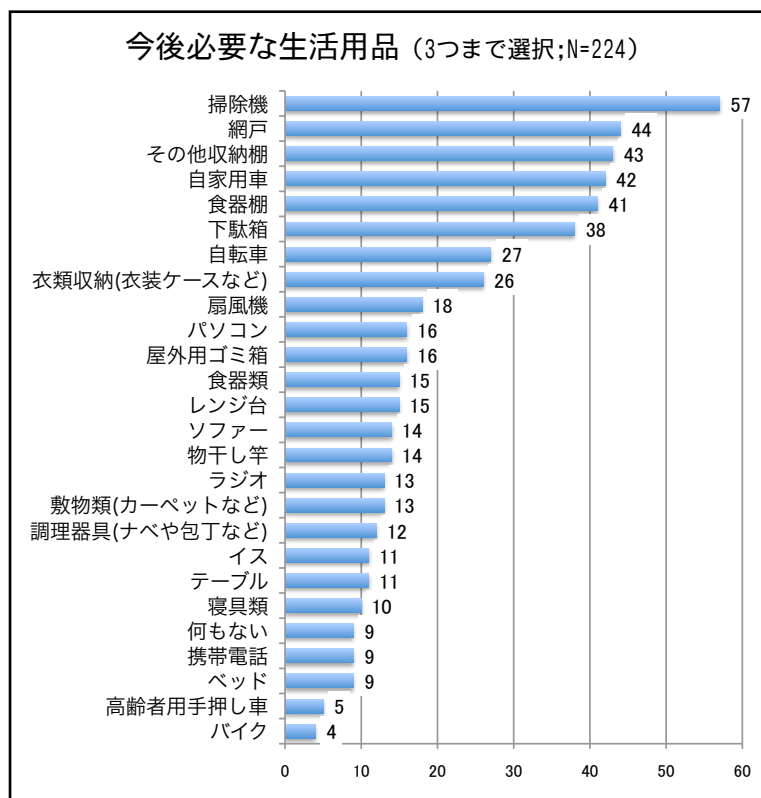
仮設住宅の入居にあたっては、30万円程度の資金を義援金などで補助することが有効と考察される。

入居時に購入した生活用品 (複数回答;N=269)



仮設住宅の入居時に購入した生活用品 (自家用車、食料品を除く) は、衣類収納が208件と最も多かった。その他、レンジ台、食器棚、下駄箱、その他収納棚などの収納用具がベスト10に入っている。仮設住宅の収納が少なく、機能的でないことが考察される。

家電品では掃除機、扇風機が161件と多かった。扇風機は節電とクーラーが一部屋にしか設置されていないため補助的な冷房として使われていると推察される。



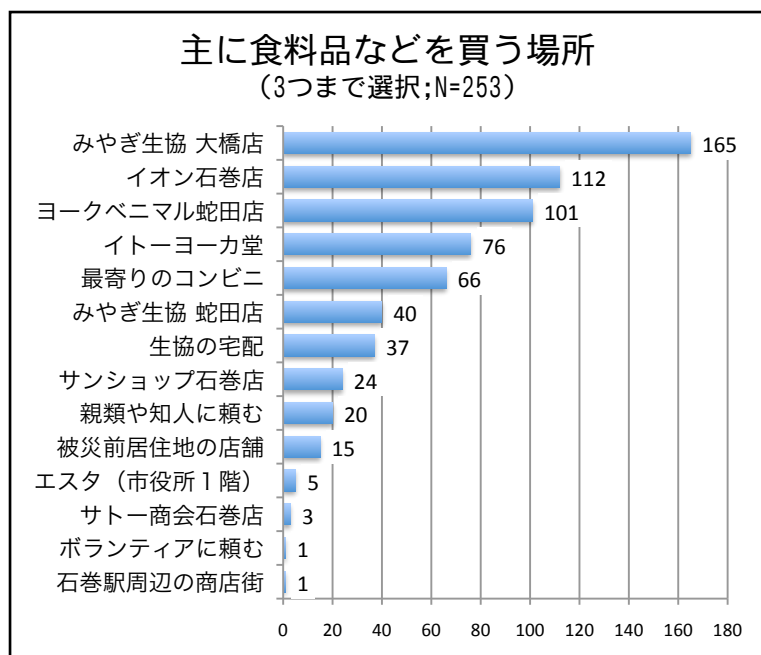
今後必要な生活用品（食料品を除く）については、掃除機が57件と最も多かった。入居時に配給する家電品に含めると考えられる。

網戸は44件と多かった。その後、行政によって全戸設置が決まったが、仮設住宅の建設時から設備しておく必要がある。

収納類は入居時に買い求めているが、入居後も必要な生活用品の上位に入っている。

移動手段を確保するために、自家用車（42件）、自転車（27件）を必要としている。

6. 買い物行動について

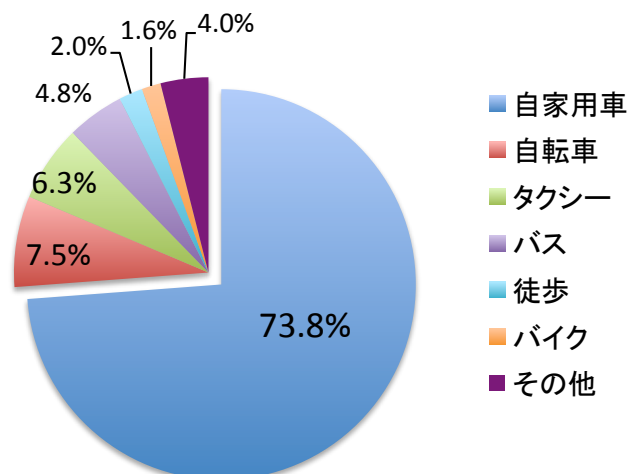


調査対象の世帯が、主に食料品などを買う場所は、みやぎ生協大橋店が165件と最も多かった。これは、南境地区からの最寄りであるためと考えられる。

地区では、蛇田地区にある大型店が2位から4位までを占め、同地区の大型店の利用が多いことがわかる。

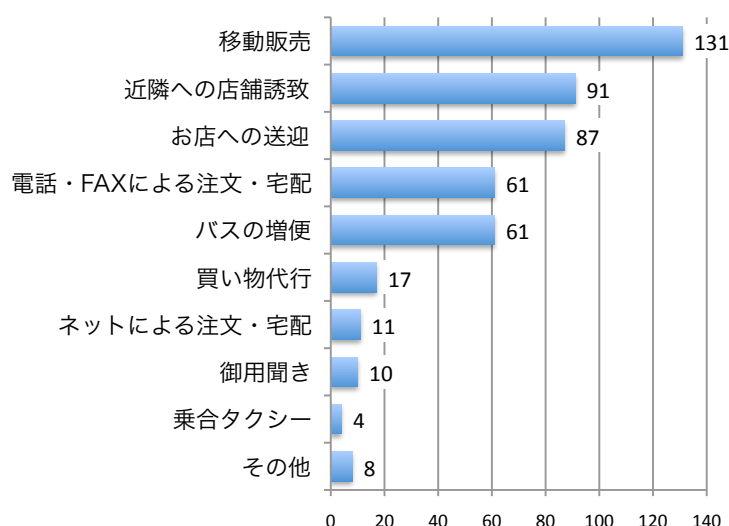
石巻駅周辺の商店街は、蛇田地区よりも近いにもかかわらず、利用する機会はほとんどないといえる。

買物に利用する移動手段(N=252)



買い物に利用する移動手段では、3割以上の世帯が自家用車を保有していないにもかかわらず、自家用車の利用が73.8%と多く、自転車(7.5%)やバス(6.3%)を利用する人が少ない。

自家用車の利用者でも、渋滞やガソリン代などに負担を感じている人が多い。バスについても料金が割高、本数が少ないなど利便性の問題が指摘されていた。

あれば利用したい買物サービス
(3つまで選択;N=257)

あれば利用したい買い物サービスでは移動販売(131件)が最も多く、次に近隣への店舗誘致、お店への送迎が続いている。移動販売は生協が行っているが、まだ不十分だといえる。

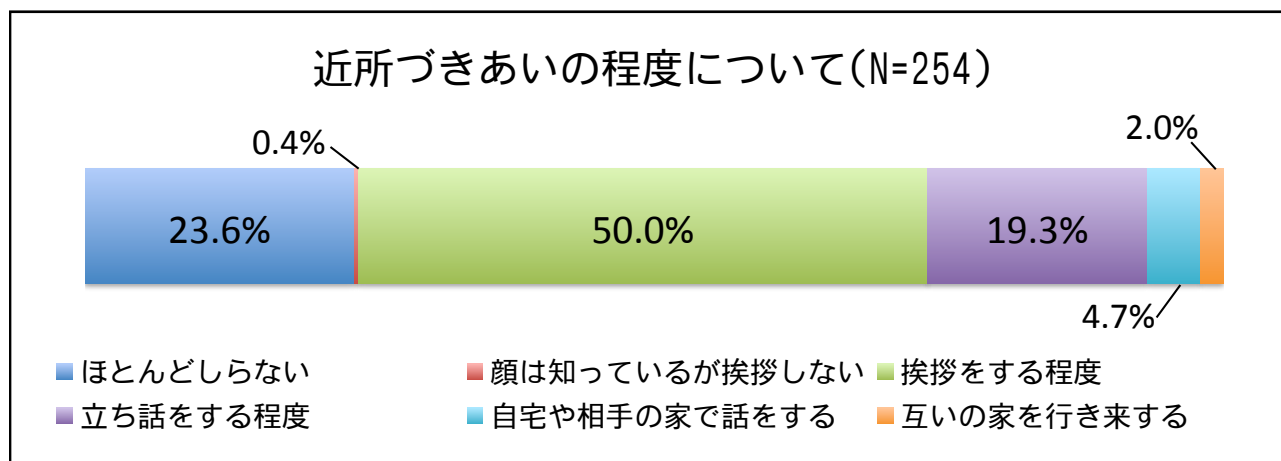
宅配や買い物代行への要望は意外に少ない。買い物を楽しまたいという意識が強いと考えられる。

バスの増便も61件も多く、公共交通の利便性を高める必要がある。

*買い物で不便に思っていること（自由記述より抜粋）

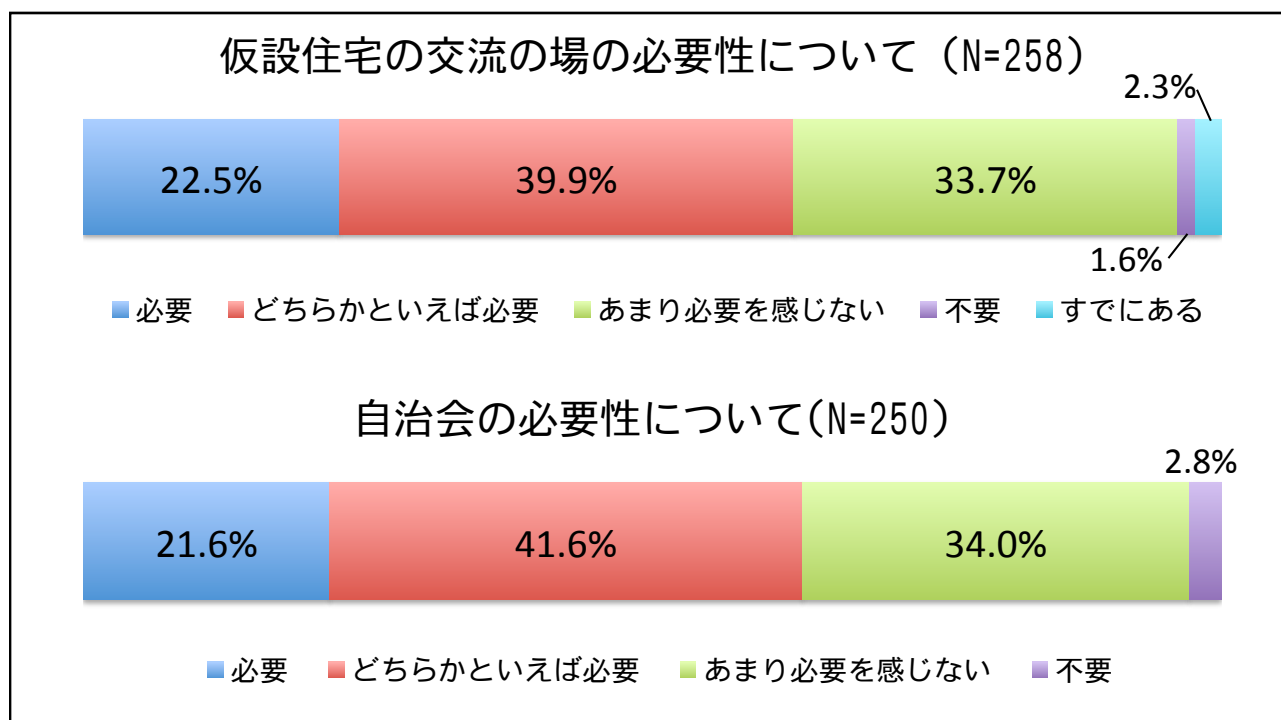
移動手段の問題	・ 自転車で買い物に行くのが遠くて大変 ・ バスの本数が少なくて不便 ・ とにかく足がないので不便 ・ 仮設が南境あたりに多く集中しているため、その近くのスーパーが混みすぎてレジもまち時間がある、子持ちや老人にはしんどい。自分の車で買い物しているが、夏とかは良いが、冬道の買い物が怖い ・ 遠いので毎日いかなかった。ガソリン代もかかるので。 ・ 近くに歩いていける店がないので、食品ひとつ足りなくても車でスーパーまで行かなければならない。
時間的問題	・ 仕事後の買い物が負担 ・ 自分の時間に合わせて自由に買い物ができない。交通の便が大変で、ハイヤーを使うようになります。
店舗について	・ 仮設が南境あたりに多く集中しているため、その近くのスーパーが混みすぎてレジもまち時間がある、子持ちや老人にはしんどい。週2回は移動販売に来て欲しい ・ 現在住んでいる仮設の周りに店がなく、気軽に買い物ができない。 ・ 南境地区に商店街がない、ゆっくり飲める場所等が一箇所に集まっていると休まる（ミニ飲食街）

7. コミュニティの形成について



挨拶をする程度が50.0%と最も多く、立ち話程度の関係も19.3%あった。住民個人による近所づきあいの努力がうかがえる。

近所についてほとんど知らないという意見も23.6%あった。入居後間もないという理由もあるが、今後は住民間の交流を進める必要がある。

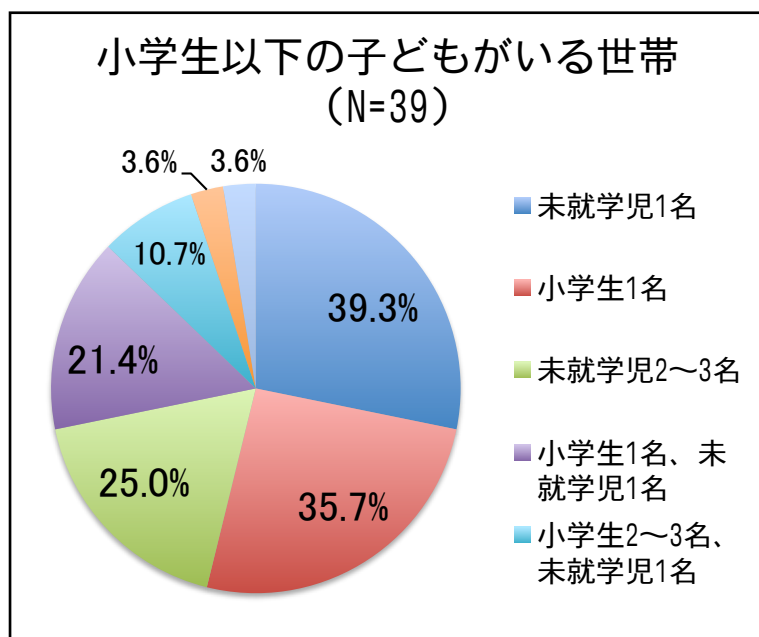


交流の場および自治会を必要とする世帯が6割を超えている。反対に4割弱の世帯が余り必要を感じていないと答えている。期間限定の住居なので、全員が交流や自治体を必ずしも必要とは思っていないと推察できる。しかし、ゴミ出しや駐車場の利用など住民間のトラブルが少なからず出てきている。仮設とはいえ人が生活する限り、住民間のルールを取り決め、生活を円滑にするためにも自治会は必要であると考えられる。

*住民交流や自治会について（自由記述より抜粋）

生活ルール	・住民の中には車を2台持っている人もいます。市は誰が車を置いていないか分かるので車の置き場所をふりわけてほしい ・各世帯に、一台分の駐車場が設置してあるにもかかわらず、仮設住宅の脇に駐車されている方が多く見られます。数分、数時間だけのつもりでしょうが、注意を受けないことにより長時間空いているスペースを使われているみたいで、とても邪魔になります。ルールを守っていかないと、大規模な仮設住宅では後々トラブルの原因になりかねないと思います。 ・ごみ出し等のルールが守られていない
交流問題	・どのような人達が住んでいるのか、顔合わせのような機会を設けるといいと思う。入居説明会の時に後から町内会のようなものを設けるとの事だったが、そのような気配がない。せっかくある集会場が無駄 ・仮の住居であり、通常の自治会は難しいのではない？ 共通利害である移転の計画等の意見交換の場であれば自主的参加もふえるのでは？ ・ここの仮設住宅並びは年寄りが3、4人います。1人生活が3人いて1日部屋で過ごすのはかわいそうなので、住民交流の場は絶対に必要なので、会話の場を与えてください
自治会参加への不安	・住民交流などが嫌というわけではないが、普段共働き昼間家になる事が少ないので、交流会などがあった場合に毎回参加する事が出来ないと孤立感などを感じると思う ・顔を合わせれば声をかけるよう努力している。入居説明時に少なくとも各列の代表を決めておくべきと痛感する。そうすればこの人達を中心に自治会設立も早かったと思う ・仕事をしているため、参加する暇がない ・急に自治会といっても顔も名前も知らないのでは無理だと思います。まずは、交流の場があってからでは？
情報不足	・仮設にいと何も分かりません ・名前が分からないので、表札が欲しい ・集会所があっても、利用についての説明等なにもない。自由に使えるようになれば交流が広がるかも ・自治会は、仮設に入居すると市の情報がないため必要（市報すら届かず）

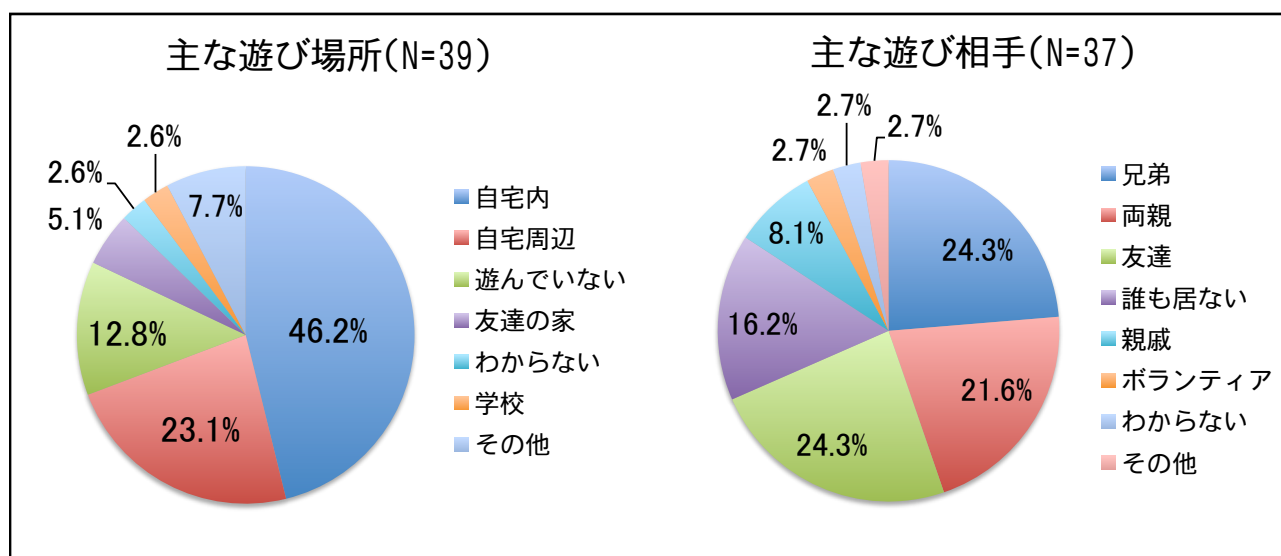
8. 子ども（未就学児および小学生）の遊びと通学について



未就学および小学生の子どものいる家庭は39世帯、調査対象全体の14.1%と少なかった。

世帯あたりの子どもの人数は1名が53.8%と半数を占めている。未就学児のいる家庭は6割あった。

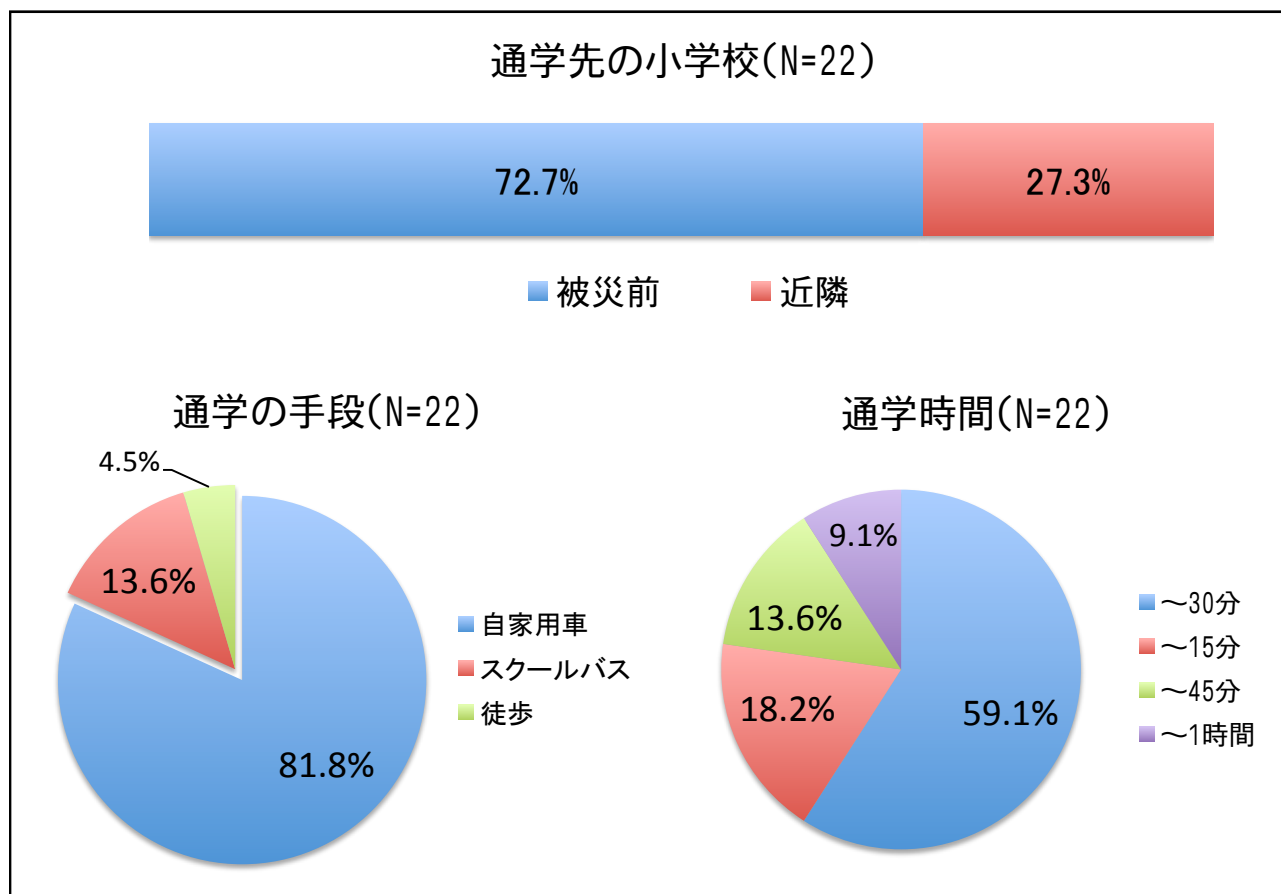
子どものいる世帯が少ないことから、目が届かない可能性があるため、親子ともケアが必要となる。



主な遊び場所で、は自宅内が46.2%、自宅周辺が23.1%だった。なかには、遊んでいないという回答が12.8%あった。子どもたちが外で自由に遊ぶ場所がないことがわかる。

主な遊び相手では、兄弟、両親、親戚という身内と遊んでいる子どもが54.0%を占めている。

遊び相手が誰もいないという回答が16.8%あり、近所に同年代の子どもがいないため遊び相手がいないと推察される。



転校せずに被災前と同じ小学校に通う子どもが72.2%いた。通学の手段は自家用車が81.8%を占めており、通学時間は16～30分が59.1%あった。自家用車を運転して子どもを送迎することが負担となっている様子が見えてくる。学区外へのスクールバス運行など、親の負担を軽減する通学補助が必要である。

＊子育てについて（自由記述より抜粋）

通学補助の必要	・学区内に住んでいる場合はスクールバスが走っているが、仮設・その他の場所からの通学は親の送迎になっている。通学の補助等があれば助かります。 ・仕事もあり、学校への送迎で悩んでいます。中学生の兄もいますが、学校から帰ってきても仮設で待たせているのがとても心配です。 ・スクールバスを出してほしい ・中学生も自転車通学が許可されえず送迎が大変
子育て環境への不安	・6歳の娘が仮設入居後に風邪をひいたが、今までなかった事もない症状を起こしたり、ちょっとした事でダダをこねたり、情緒不安定になったりする。 ・泣く声が大きく隣近所にいつ苦情を言われるかハラハラしている ・同じ仮設住宅に子供と同年代の子がいないようなので、近くに遊び相手が居ない。
遊び場の不足	・子供の遊び場がない、震災ゴミ置き場直近のため、ほこりがすごく外で自由に遊ばせられない ・遊ぶ場所、おもちゃがない、公園がない、遊具がない

9. 仮設住宅の不便に関する自由記述のまとめ

①仮設住宅ハードへの不満

収納	・ 収納場所が少ない ・ 物置がないため不便 ・ 冬に灯油をしまう場所が欲しい
居住スペース	・ 部屋が狭い ・ 風呂が狭く深い ・ 遮音対策が必要 ・ 窓が少なく網戸もないため風通しが悪く暑い ・ 物干し場が小さい
外構	・ 砂利が敷かれているため歩きにくい ・ 玄関の段差や砂利が危険

②コミュニティ形成の遅れが引き起こしている問題

駐車スペースの問題	・ 駐車スペースが不足している ・ 自分の駐車場に誰かが車を止めることが多い ・ 自転車の駐輪場の設置
普通ゴミの出し方	・ ゴミ捨て場の衛生環境が悪い ・ ゴミ収集の日程や捨て方がよくわからない ・ ゴミの出し方を明記して欲しい
住民交流の要望	・ 交流の機会がない ・ 交流の場、相談の場が欲しい
情報の伝達と発信	・ 行政等の連絡が伝わりにくい。行政、議員の定期巡回が欲しい（苦情、要望の聞き取り）

③買い物や交通の問題

買い物問題	・ 近くに買い物のできる場所がない ・ 買い物へ行くための手段が必要
交通問題	・ バスが不便、本数が足りない ・ バスの停留所を明記して欲しい ・ バス停を増設して欲しい

④子育ての問題

遊び場所	・ 子供が遊べる場所が欲しい、とくに小さい子供（小学生以下）の遊べる場所がない ・ 目の前が、がれき置き場なので外で子供を遊ばせられない
通学	・ スクールバスを運行してもらいたい ・ 学校の送り迎えが大変

おわりに

この調査は、ゼミの学生たちが、仮設住宅の現状を把握し、自分たちでできる支援を考えるために実施しました。調査段階の仮説では、コミュニティ、買い物、子どもの領域で問題があると考えていました。結果は仮説どおり、それぞれの領域で問題があることがわかりました。さらに、仮設住宅の住民の6割が無職という事実が明らかになり、その対策も新たな問題として浮かび上がりました。

ゼミ生たちは調査結果をもとに、子どもを中心としたコミュニティづくりをおこなう「コミュニティ・子ども班」、買い物問題は交通問題と考え問題を解決する「交通問題班」、生活の自立を実現するため、主婦パワーを生かし無職の住民に僅かでも収入をもたらす仕事をつくる「収入対策班」の3班で動き始めました。学生たちの働きが住民交流を促し、自治会の組織に少しでも貢献できればと思っています。

仮設住宅ではコミュニティの形成の遅れが、さまざまな問題を生んでいます。この調査のあと間もなく、仮設住宅で殺人や自殺といった悲しい事件も起きています。一次的な住居ではあっても、隣人とのつながりがあれば防ぐことができたかもしれません。住民同士の交流を基盤に、ゴミ出しや駐車場のルール作り、ゴミ集積所や仮設の敷地内の清掃など、自治会活動の早期実現が望まれます。ひとり一人の生活改善への自覚、つまり誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分たちで自分たち住む場所の問題を解決することが自立への一歩となることと考えています。

石巻専修大学は東北次第の仮設住宅地区に立地しています。仮設住宅の住民は、いまままで石巻市民として20余年にわたって大学を支えてきてくれました。今度は私たちが恩返しをする番です。大学はこの場から逃げることはできません。石巻の街と住民の生活再建なくしては大学の存続はあり得ません。住民の方たちが仮設住宅を去るときに「あそこの近くに大学があるのに何もしてくれなかった」と言われるのではなく、「大学が近くにあったお陰でよい生活ができた」と言ってもらえるように、今後とも支援をつづけていきたいと考えております。